

別記様式（第5条関係）

会 議 録

会議の名称		令和8年度 第3回郷育推進会議
開催日時		令和8年7月22日（水） 18：30～20：00
開催場所		福津市役所別館1階 大ホール
委員名		(1) 出席委員 木本会長、伊藤委員、宇都宮委員、大森委員、國廣委員、立山委員、道園委員、中島委員、柳田委員、 (2) 欠席委員 山口副会長
所管課職員職氏名		教 育 部 長 宮原 栄介 教育部理事兼主幹指導主事 原尻 敏広 郷 育 推 進 課 長 芹野 文彦 教育部郷育推進課図書館長 長友 伸二 郷育推進課中央公民館館長 松尾 信人 郷育推進中央公民館係長 瀧口 純一 郷育推進課青少年活躍推進係長 富山 昌志 郷 育 推 進 課 郷 育 係 長 宇藤 雄矢 郷 育 推 進 課 郷 育 係 山西 菜穂子
会 議	議 題 （内 容）	議題 1. 福津市生涯学習推進計画（現行）の総括について 2. 次期福津市生涯学習推進計画について
	公開・非公開の別	☒ 公開 ☐ 非公開 ☐ 一部公開
	非公開の理由	—
	傍聴者の数	0 人
	資料の名称	・資料1_1～3 章案 ・資料2_理念と目標 ・資料3 ・資料4 ・指標（進捗状況）
会議録の作成方針		☐ 録音テープを使用した全文記録
		☒ 録音テープを使用した要点記録
		☐ 要点記録
		記録内容の確認方法：会長による確認

その他の必要事項	
審議内容 （発言者、発言内容、審議経過、結論等） 1. 開会のことば 2. 会長あいさつ 3. 協議事項 「福津市生涯学習推進計画（現行）の総括について ●会長 生涯学習推進計画の策定にあたり、前回までの会議でいろいろご意見をいただいている。生涯学習推進計画と教育総合計画の次期計画策定に向けた検討が同時に進められているが、その上に教育大綱という大きな柱がある、それを踏まえて生涯学習推進計画があるので、まず教育大綱の確認を含めて、指導主事よりご説明をお願いしたい。 ●指導主事 教育大綱は、教育の方向性、理念を市長が定めるもの。生涯学習推進計画、教育総合計画等の具体的な施策の元となるのが教育大綱である。教育大綱の原点として、福津市は100年以上前に安部清美さんが掲げた「愛の教育」がある。一人一人の存在をちゃんと認めて、誰一人取り残さず、一人一人を大事にする、地域全体で子どもと一緒に学ぶことで、豊かな感性が身につく。そのようなことが大正時代から言われて、根付いているのが福津市の特徴であり原点。 教育大綱を策定するにあたり、専門家の意見のみを参考にするのではなく、市民が参加して一緒に話し合うということに取り組んでいる。まず専門家から、福津市の教育について解説を聞き、ワークショップを開いて、今どんなことを子どもに学んで欲しいか、私たちに何ができるのかを書き出した。 教えられて覚えるだけではなく、答えのない問いを自分で探し、問いを立て、それをどう解決していくかという経験を子どもにしてほしい。子どもが学ぶためには大人が楽しく学ぶ姿勢を見せる事が、今後検討する生涯学習に繋がってくる。 他には、自分の居場所をしっかりと地域で作ることを、市民が望んでいると考えられる。 資料の「共創、共育、共生」とは、まず、ふるさとのことを学んで知り、ふるさとを大事に思うような、地に足のついた教育をしていく事。一人で学ぶのではなく、共同活動をする。子どもと大人が一緒になって学び、育てる、育ち合うことを大事にして、結果的に未来を作り出す。それが教育大綱の大きな理念となる。 人が支えられる存在から、共に育つ存在、そして未来を作る存在へと成長していくことが、教育大綱という理念の中で大きく捉えられている。まず自分を見つめて、自分と繋がり、友達や仲間、先生や周りの人との繋がりを大事にする。この時代なので、きちんと世界にも目を向け、そして地域と繋がる。この繋がりが、「共創、共育、共生」の文化を育む基盤になる。 子どもを育てることは、30年後の福津の担い手を育てるということ。子どもたちが「郷」である福津を大事に思う気持ちがあるほど、良い意味で発展していく。	

共に育つ、共に学び、共に教え合う。仲間同士で学び、共に育つこともあれば、学ぶことで自分が考えている課題が解決できることも意識できる。その結果を皆で考え、失敗も許容することも大事にしていこうという内容が、福津の教育の理念では述べられている。それを具体的に示すものが、教育総合計画、生涯学習推進計画であると考えられる。この理念をベースに、生涯学習推進計画に繋げていただきたい。

●会長

郷育推進課の「郷」は、「ふるさと」「ごう」と読むが、「郷」を大事にしているからこそ福津市には「郷」の字を使った「郷育推進課」がある。ふるさとに生まれ、皆でふるさとを育てていく理念に基づいて、子どもたちの学び、市民の生涯学習を考えていきたい。

●事務局

(事務局から、生涯学習推進計画の現状について説明)

8年前に作成された生涯学習推進計画について、評価が難しい部分はあるが、達成目標に対してどれくらい達成したかを数値化した資料を作成した。

資料の一番左が「評価する内容」、右が目標の数値となっている。郷育カレッジを例とすると、受講者の満足度の目標を90%としており、去年は87%の受講者が満足と回答している。郷育カレッジについては学びの機会、質は確保できたが、地域や学校との連携が十分に進んだと言い切れない現状がある。

アンビシャス広場は目標の参加者数が25人となっているが、昨年度は14人だった。コロナの影響等もあるかと考えられるが、今後の事業についてしっかり検討が必要である。

このように、数値をもとに目標に向かって事業を進めていく。資料の数値から、どの事業もある程度成果があったと読み取れるが、課題は継続的にある。事業の担い手の高齢化、若い世代の参画が少ない等。

仕組みづくりは進んでいるが、それが広く地域に浸透したり、結びついていない。こういった課題の解決が必要。

●会長

今年の郷育カレッジも、夏休みに子どもが参加できる講座があり、たくさんの応募があった。

社会の仕組みが変わっていく中で、学ぶ場所や学びたいものの求め方が変わってきているかもしれない。

●委員

コロナは予測できず、動きが取れなかったため、数字だけで判断は難しい。

●委員

資料にあるサークルとは、公民館のサークル活動も含まれるのか。

●事務局

この資料の作成は、市民対象のアンケートの結果なので、広い意味で市民が生涯学習や生きがいに繋がるようなサークルに参加したことと考えられる。文化協会は含まれるが、婦人会やシニアサークルは別で扱っている。

●委員

今回の生涯学習推進計画も、同じような指標を作るのか。

●事務局

「これを目指そう」「そのためにこの活動や事業をしよう」と取り組んだ内容を後で振り返って「成果のあったものはより良く」「うまくいかなかった場合は別の方法を考えよう」と、ある程度評価する事が必要。そのためにどう指標を作るか、項目等この委員会で考えていきたい。

●会長

8年前と社会が大きく変わったので、指標の基準が変わった。生涯学習推進計画を作って、その指標があまりに細かく、それが達成できないことが悪いという雰囲気になると、本当に大事にしなければならないものが見えなくなる心配がある。そういったことも踏まえて計画を作りたい。

改定案だが、素案を事務局と一緒に作成し、事前に運営委員にメールで送付している。前回の計画は「ひと」「もの」「こと」が中心だったが、以前と比べて構造上変化があったものもある。今回は事務局から基本目標として、「郷育による人と地域づくりの推進」「誰もが学び続けられる郷育環境の充実」「地域資源を学び、未来へつなぐ郷育の発展」「学びの成果が地域で生きる郷育の循環」がある。以上を踏まえて、まずは学校現場の現状を紹介して欲しい。

●委員

学校とは関係ないが、郷育カレッジ講座に、働いている世代や、若い世代が参加するとなると、今年度は土曜日の開催が一桁、日曜日の開催はない。様々な方に参加してもらおう視点であれば、時間帯や曜日を考えていくと多くの人に広がるのではないかな。

郷育カレッジで、小学生が講師となって行う、人形浄瑠璃の講座がある。その講座の受講生である大人の方から意見をいただく事が子どもたちの励みになっており、学校側としては有難いと感じている。一方で、学校と地域との繋がりを広げる事が難しいと感じる場面もある。学校が目指すのは、小中連携や地域との連携をしながら、学びたいと思う子どもが、大人になっても学び続けられる教育環境を作り上げていく事。

アンビシャスが非常にいいシステムだと思う。自身が小学生のころを思い出すと、子ども会でいろんな大人にお世話になったのが今になってわかる。「あの時、大人からいろいろなことを教わったな」と。親以外の大人が関わることは絶対に子どものためになり、影響を与える。

●委員

アンビシャスは地域によって運営を担う人が違う。保護者が主体、地域の方が主体等。

●委員

自分の地域は子ども会自体がないが、地域の方がラジオ体操、七夕会など率先して行事を開催して、少しずつ子どもたちが集まっている。子ども食堂を開催し、ご飯を食べてもらおうという計画もしている。「親御さんと一緒に子どもたちもおいでください」という、前任者の想いを引き継いでいる。

●委員

自分の地域では、夏休みの午前中に小学校で児童が宿題をやるので、かき氷作りを手伝って欲しいと学校から言われた。当日学校に行くと、高校生が宿題を教えてくれていた。

郷づくりでは、小学生が地域の方とどの様に繋がったらいいいのかというテーマがある。大人に頼らず、子ども達だけでどうやったら地域と繋がれるのか、方法を考えている。

中学生と小学生がすごろくをした際も、中学生が上手に「そしたらそれをどうしたらいいと思う？」など質問をして、考える力がつく。小学生は、中学生や高校生を見て、こういう風になりたいと憧れる。

●会長

子ども達から繋がりたいという意見が出ると、夢がある。

●委員

自分は陶芸教室に通っているが、大人の活動に子どもを引きこむ事が大切。自分が50年以上前に子ども会の指導をしていたころは、行事があると声を掛けたらすぐに子どもが集まった。今は保護者の理解が必要。地域の伝統的な行事に参加したい欲求が子どもにはある。

●会長

大人の背中を見せる事が大事。子どもが「一緒に」学びたいと言ったとき、門戸が開いていることが必要。仲間内で楽しく活動することも大切だが、新しい人が入ったときに、雰囲気が変わるのを大変と捉えず、いろいろ伝えていこうという考え方を持ったほうが良い。

前回の会議で結構自治会の話が出たが、福津市以外の自治会の現状はどうなっているか。

●事務局

自分は福津市外在住だが、自治会について役所で案内をしているが、普段生活する上で自治会を意識したことがない。伝統的な行事があると、子ども達が集まって活動している。子ども会に入るのがマストという考え方ではなく、地域の公共施設で開催している講座があり、それを選択して趣味や嗜好が共通する子ども達で仲間となり過ごすことも教育の一つと考えられる。

●会長

かつての福津市は子ども向けの行事が盛んで、自分の子どもにも同じような体験をさせたいと考えていたが、現在は盛んではない。

8年後の状況が今と変わっていることも踏まえ、生涯学習推進計画を考えなければならない。既存の組織をあまりにも意識すると、目標に到達できない可能性がある。

●委員

自分の自治会では、子ども会が休止中で、通学合宿も今はやっていない。

今度の10月に子ども向けのイベントを計画しているが、子ども会が無いので学校に案内チラシの配布を依頼したところ、多数の応募があった。そういったことから、子どもたちは行事が好きだと考えられる。野外活動等する機会があまりないと思うので、いろいろ体験をさせてあげたいが、保護者が送迎できない、他の兄弟がいるため参加できないことがある。

●会長

イベントは、夏休みは子ども向けのものがあるが、他の時期の土日でも年間を通して計画を検討しても良いのでは。

昔は子どもが自分で歩いて遊びに行っていたが、現在は保護者が送迎することもある。安全を確保して、大人と子どもと一緒に学べる場を計画したい。

●委員

この計画が8年というのは、期間が長く予想がつかない。4年ぐらいで見直す前提で取り組まないと、先が見えないという正直な感想がある。

生涯学習という意味で考えたら、中央公民館の利活用と、郷育カレッジに関するアンケートの結果を生涯学習推進計画に取り入れる必要がある。

郷育カレッジは、子どもや若い現役世代が参加するためには、土日に開催したり、時間帯を遅く開催したりする必要があると考えられる。

●会長

学びの場の充実で、カメラホールや図書館の利活用という方向性があるが、中央公民館に魅力があるのかがポイント。中央公民館のアンケートは今中高生に向けて実施しており、内容を生涯学習推進計画に落とし込んで発展させたい。

郷育カレッジに関するアンケートも、事業自体が今年で24年目を迎え、認知度があり、定着して安定しているからこそ、可能性を感じている。改めて「郷育」の最初の理念や基本を大事に、いろんな意見を柔軟に取り入れたい。

●委員

特に昭和と令和の今では組織のあり方が変わったのが大きい。人の価値観、繋がり
の価値観も変わっている。以前は活動、特に社会教育・生涯教育の中での活動には決
まった内容があり、参加者からすると「与えられる」イメージだった。しかし与えら
れる活動だと、それを動かす組織に入らなくてはならず、自分がやりたくない事をす
るという負担感が出てくる。だから今「作る活動」へという流れがある。やりたい事
を作る活動にはすごく親和性が良い。やりたくない、作りたくない大人がPTAや子ど
も会で「やれ」と言われると、負担を感じるということになる。

繋がり方が、昔は決まっている一つの箱に入って皆で繋がろうというイメージだっ
たが、今はその時々と場所や活動の内容に応じて、繋がり方が自在に変わっている。
自主学習の場の提供の仕方としても、1人の場合もあれば、個々で繋がりがある場合も
ある。少人数のグループかもしれないし、祭りのように大人数でやる時もあるかもしれ
ない。「ここに入れ、これをやれ」という様に、決まった既製品をやるのは昭和的。大
学生の遊びも、昔は「皆でどこかに行こう」「皆で飲もう」というのが主流であつた
が、今は集まりたい人が集まる、となっているので、時代の変化に合わせて組織のあ
り方、活動の価値の捉え方をアップデートしないといけない。

そういう目で今回の資料を見た時に、構成がとても良い。特に「誰もが学び続けら
れる」という文言。昔は学校教育以外が社会教育であるという色が濃かったので、生
涯学習と言いながらも「学校が終わった大人の場」のイメージがあつた。でも本来生
涯学習は社会教育だけではなく、0歳から学校も含めて大人までが全員参加できる。
以前は「学校を終わって社会人になってから」のイメージが、社会教育的な生涯学習
だった。

今は子どもが地域の生涯学習に入ってきて、より本来的なものになっている。現在
の状況を運営するには、既存の組織では難しい。今回は生涯学習計画なので組織のあ
り方まで述べるものではないが。繋がり方が場所や内容によって自在に変わり、個人
が大切にされ、やりたい人たちが集まって自由に活動すると考えると、ワクワクす
る。資料の基本目標から、私はそう読み取っているが、この施策や事業、説明の中で
市民に伝わる形になれば「随分今時だな」「自分もここでやってみたいな」という方
向になるのではないか。

現在同時進行で生涯学習推進計画と教育総合計画を作成しているが、それぞれの理念や方向性は、本日の会議で話し合った内容でよろしいか、目標はこれで良いか、施策への繋がりはおかしくないか、確認しておきたい。

●一同
同意

●委員

生涯学習の基盤は「郷育カレッジのみ」なのか「郷育カレッジは一部」なのか。
「誰もが学び続けられる」の「誰もが」は、一人の時もあればグループの時もある。
そう考えると、例えば「郷育カレッジを福津市の生涯学習の重要な基盤の1つと位置づける」くらいがよいのでは。

●一同
同意

次回開催日

第4回 令和8年9月29日（火）18時30分～開催予定。